

## ② 視覚障がい者

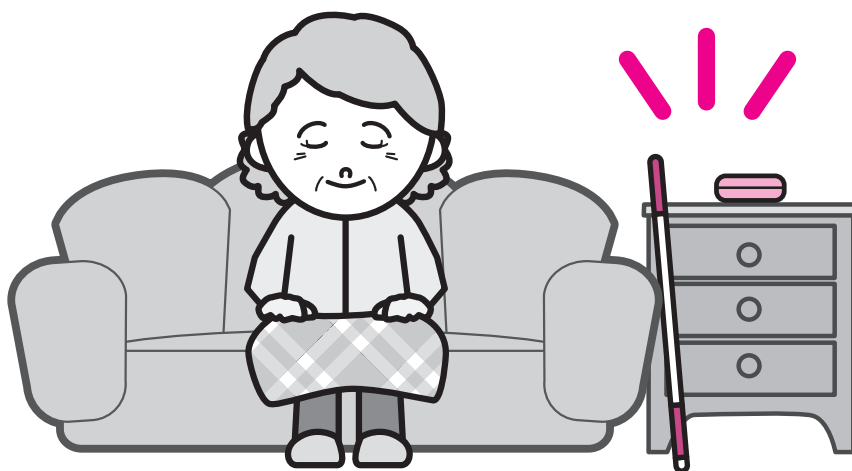
### 自分の備え

#### 日ごろの備え

- 家の中の物の配置を確認しておきましょう。
- めがねや白杖（はくじょう）は、いつも手の届くところに置きましょう。
- 正確な情報を収集するために、ラジオをすぐに利用できるようにしておきましょう。予備の電池も備えておきましょう。
- 災害時に助けを求めることができるよう、連絡先の点字メモ、メモ用録音機等を準備しておきましょう。
- 非常用持出袋に「視覚障がい者です」と書いておき、周りの人がすぐ気づくようにしておきましょう。
- 避難所までの経路を実際に歩いて確認しておきましょう。

#### 安全な避難

- 避難時は白杖（はくじょう）を持ち、視覚障がい者であることを分かってもらえるようにしましょう。
- 周りの状況が分からないときは、大きな声で視覚障がい者であることを告げ、周囲の人に援助を求めましょう。



## 避難を支援する人

### 避難行動

- 視覚障がいのある人を見かけたら、声をかけ、安全な場所へ誘導しましょう。
- 視覚障がいのある人は視覚による状況の把握が難しいので、情報提供をする際は、言葉で、具体的に、分かりやすく伝え、誘導しましょう。



### 誘導する際の留意点

- ・ 自分の肘の上または肩を視覚障がいのある人に片手でつかんでもらい、誘導しましょう。
- ・ 方向を示すときは、「右」「左」「前」「後」を伝え、また階段や段差があるときは、いったん停止し「階段か段差」「上りか下り」を具体的に伝えましょう。

### 避難所での対応

- 全盲や弱視、色覚等、その方の障がいの特性を理解し、必要としている支援の内容を確認しましょう。
- 避難所の状況をできるだけ正確に分かるよう（特にトイレの位置等）、案内しましょう。
- 壁伝いに移動することが多くなるため、生活場所を出入り口近くや壁側にしたり、壁側に物を置いたりしないよう配慮しましょう。
- 避難所では、市からの広報や生活に関する情報は、文字で書かれているものが多いため、放送・拡声器等により音声情報を繰り返し流したり、拡大文字を使用したりしてその情報を知らせるようにしましょう。
- 盲導犬と離ればなれにならないための配慮や、排せつ場所等の準備が必要です。また、盲導犬を使っている方の許可なく、食べ物を与えたり、触ったりしないようにしましょう。
- 言葉で分かりにくい場合は、目的のものに手で触れてもらうと理解しやすくなります。
- 一見不自由がないようでも、色覚に特性がある、視野が狭い、まぶしいところや暗いところが見えにくい弱視等の人もいることを理解しましょう。

**視覚障がい者の中には、聴覚等にも障がいがある人（盲ろう者）がいますので、支援にあたっては十分な配慮が必要です。**

▶▶ 点字版については障がい福祉課にお問い合わせください。

障がい福祉課 ☎ (0985) 21-1772